英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
廃炉加速化研究プログラム（国内研究）
事後評価総合所見

研究課題名：革新的ナノ構造金属酸化物による放射性物質除去法の新展開

代表研究者（研究機関名）：浅尾　直樹（信州大学）

再委託先研究責任者（研究機関名）：赤木　和人（東北大学）

研究期間及び研究費：平成２７年度～平成２９年度（３年計画）　　８８百万円

項 目	要　　約
１．研究の概要	放射性汚染水による環境汚染を防ぐためには、放射性核種を効率的に捕捉して安全に貯蔵できる材料の開発が急務である。これに資するため、本業務実施者がこれまでに培った金属酸化物ナノ材料の合成法を利用することにより、ストロンチウムイオンやセシウムイオンに対して優れたイオン吸着性を有すると共に吸着後の安全な貯蔵を可能とする金属酸化物ナノ材料を開発することを目的とし、以下の研究開発を行う。 １）金属酸化物の合成とナノ構造制御に関する研究 ２）金属酸化物の構造解析 ３）金属酸化物の生成機構解明
２．総合評価　A	・金属酸化物ナノ材料による、ストロンチウムイオンやセシウムイオンに対する吸着材の開発並びに吸着メカニズムの検討について、基礎的に優れた成果が出ており、実用化に向けた次のステップに進んで欲しい。また、本技術の他分野への波及について期待したい。
	Ｓ）極めて優れた成果があげられている Ａ）優れた成果があげられている Ｂ）一部を除き、相応の成果があげられている Ｃ）部分的な成果に留まっている Ｄ）成果がほとんどあげられていない